

神楽名

# くろくち 黒口神楽

伝承地

黒口地区  
白杵郡高千穂町大字上野

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

黒口神楽保存会  
代表 興梶 賢治



八 鉢

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

黒口神楽は高千穂神楽<sup>かみの たばる</sup>の上野・田原系統に属する神楽である。黒口は、上野地区<sup>かみの</sup>の西側に位置する世帯数63戸の集落で、夜神楽は神社の氏子主催で行われている。古武道である「戸田流棒術」が江戸時代から盛んに行われ「戸田流の里」として練習場が大切に保存されている。

氏神社<sup>うじがみしゃ</sup>である「黒口神社」は、天上界の水種を司る天村雲命<sup>あめのむらくものみこと</sup>が、牛に乗り高天原からこの地に降りられたと伝えられる。また別伝として十社大明神<sup>じっしやだいみょうじん</sup>三毛入野尊<sup>けいりのみこと</sup>の御子<sup>みこ</sup>・三郎天神<sup>さぶろうてん</sup>が牛を連れてこの地に来られ、宮居を建立されたとあり、古くは「大空天神社」<sup>おおぞらてん</sup>「三郎天神社」<sup>さぶろうてん</sup>と称された。神社再建の歴史は古く、天歴9年(955)の棟札<sup>むねふだ</sup>があり、現在の社殿は寛政5年(1793)に建立されている。本殿の左脇障子<sup>ひだりわき</sup>には、牛を連れた天村雲命<sup>あめのむらくものみこと</sup>の彫刻があり、本殿正面の海馬<sup>かいば</sup>、向拝両柱<sup>こうはいりょうちゆう</sup>の昇り龍・降り龍など、多彩な彫刻が施されている。伝えでは、夜な夜な龍が柱を抜け出し付近の作物を荒らしたため、色彩を剥がし、目を繰り抜いたという。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 黒口夜神楽… 11月24日～25日 黒口神社にて神事後、公民館にて奉納
- 新嘗祭<sup>にいなめさい</sup>、歳旦祭<sup>さいたんさい</sup>、太鼓の口開け、春の大祭に「式三番」<sup>しきさんばん</sup>などを奉納

## ◆ 演目一覧

宮神事	御神幸 <sup>ごしんこう</sup>	舞込み	彦舞 <sup>ひこまい</sup>	御小屋簷め <sup>みこやほ</sup>	太殿 <sup>たいどの</sup>	神降し <sup>かみおろし</sup>
鎮守	杉登 <sup>すぎのぼり</sup>	地固 <sup>じがため</sup>	八鉢 <sup>やつばち</sup>	太刀神添 <sup>たちかんぜ</sup>	山森 <sup>やまもり</sup>	七貴神 <sup>しちきじん</sup>
弊神添 <sup>ひかんぜ</sup>	五穀	地割 <sup>じわり</sup>	御神体 <sup>ごしんたい</sup>	岩潜り <sup>いわくぐり</sup>	武智 <sup>ぶち</sup>	袖花 <sup>そではな</sup>
大神 <sup>だいじん</sup>	住吉	沖逢 <sup>おきえ</sup>	柴引き	伊勢	手力男	鈿女 <sup>うずめ</sup>
戸取り <sup>とと</sup>	舞開 <sup>まいびらき</sup>	注連口 <sup>しめぐち</sup>	雲下し <sup>くもおろし</sup>			

※平成27年11月の神楽奉納番付に基づく

## ❖ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。「大神」は、麻の神徳、呪力による祓除招福の神楽で、願掛け願ほどきで萬事を司る大事な神楽といわれ、舞の終了後、神職、舞人により、四方・中央に三度の拝礼が行われる。また「地割」は山神が、耕地の割り替えを行う神楽で、竈祭の神楽としても奉納される。はじめに台所で神事・杯事の後に、神主、太刀・弓の正護と荒神が舞込む。上野・田原地区では、この時、台所役の女性が荒神の袴裾を引っ張り、邪魔をして笑いを誘う。舞の終了後には神主・荒神の問答が行われる。

夜明けには「岩戸開き」の神話にちなんだ「岩戸五番」が奉納され、最後に「注連口」「雲下し」で神々を送って終了する。

## ❖ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、地割荒神、七貴神、御神体、柴引き、鈿女、戸取 等。
- 楽... 太鼓、笛。
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、ホカケ烏帽子、天冠 等。
- 採り物... 鈴、榊、舞扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、折敷、札板、帯 等。
- 文書... 「天石屋戸之伝」巻物(明治37年)、「御神楽御神講屋控帳」(大正4年)等が保管されている。

## ❖ 伝承の現状・課題

以前は神社の神楽殿で神楽を奉納していたが、見学者が増えたため民家を神楽宿とするようになった。その後、高齢化、住宅構造の変化、見学者のマナーの低下などの理由で、現在は公民館で奉納されている。黒口神楽保存会の会員は小中学生を含む19名で、舞い手、村役目とも高齢化による今後の後継者不足が心配される。



大神



地割



戸取